

「コットンから見た日本の衣と農」

SGS14期 藤本明美

学習スケジュール

●1年目 資料調査
2016年4月～

●2年目 コットン栽培
&フィールドワーク
2017年5月～11月

●レポート作成
2018年3月末 終了



●レポートレジメは・・・こんな感じ

- 1.はじめに（何故、コットンに興味を持ったのか？）
- 2.衣服の国内自給率の話
- 3.コットンの歴史
- 4.フィールドワーク報告
 - ①糸紡ぎ体験（丹波布伝承館）・丹波市
 - ②サムライ自家製ジーンズプロジェクト・篠山市真南条営農組合圃場
 - ③365cotton（サブロクコットン）・西脇市
 - ④かこっとなファームプロジェクト・加古川市
 - ⑤福島オーガニックコットンプロジェクト・福島県いわき市
 - ⑥全国コットンサミット・加古川市
- 5.まとめ

●何故、コットンに興味を持ったのか？

①神戸市シルバーカレッジの生活環境コース・3年次のグループ学習

テーマ「衣服と環境～古着の行方を追いかけて」

古着のコットンからバイオエタノールが製造できる～！？

②NPO法人 ザ・ピープルの吉田恵美子理事長の取り組み

福島県いわき市の古着回収団体が、2012年（東日本大震災の翌年）

から地元でオーガニックコットン栽培を開始・・・何故？

③2013年に「米つくろう会」に入会したこと

活動場所の篠山市真南条営農組合の圃場で、サムライジーンズが2012年

からオーガニックコットン栽培に取り組んでいた・・・何故？

▼ふくしまオーガニック
コットンプロジェクト
(福島県いわき市)



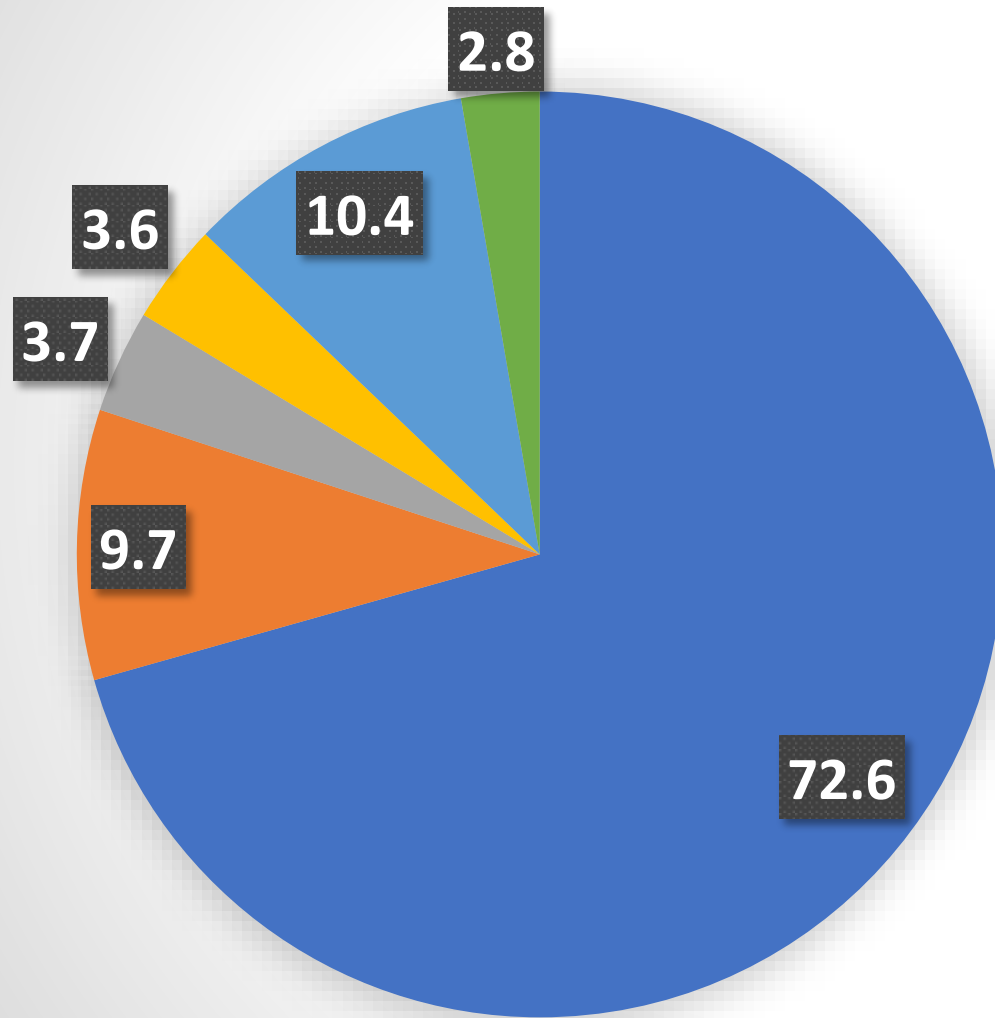
▼サムライ自家製ジーンズ
プロジェクト
(篠山市真南条)



衣類の国内自給率 2.8%

(帝国書院HP・2015年貿易統計)

(衣類の対外依存度は、97.2%)



■ 中国

■ ベトナム

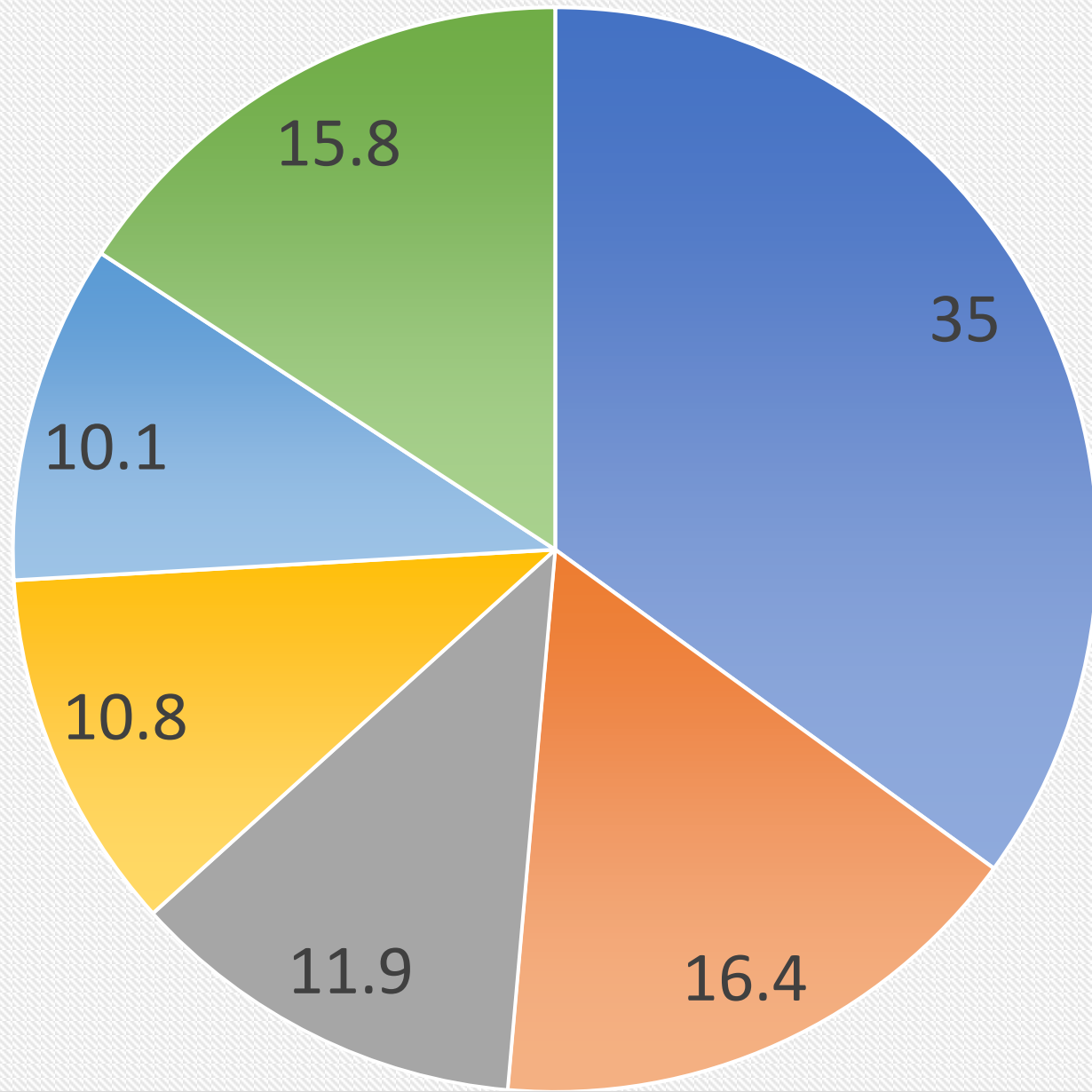
■ バングラデシュ

■ インドネシア

■ その他

■ 日本(国内自給率)

Cottonの対外依存度は、100%



■ アメリカ

■ ブラジル

■ インド

■ ギリシャ

■ オーストラリア

■ その他



●コottonの歴史(世界)

綿紡績機の発明に始まる、イギリスの産業革命が、世界の歴史を大きく変えた！

●キャラコ（インド産綿布）論争（17C後半～

●産業革命（18C半～19C）



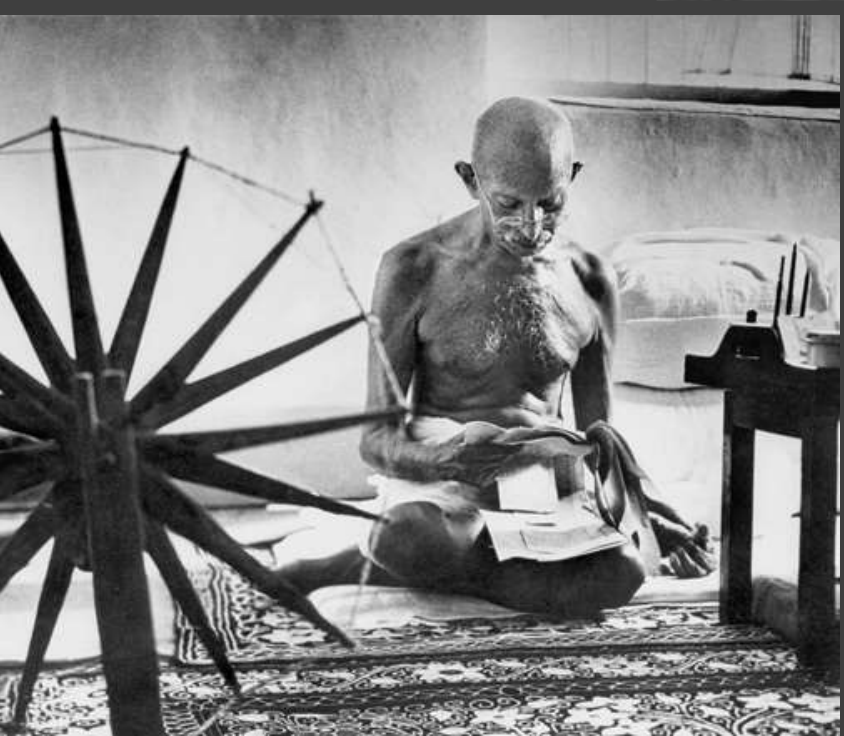
●インドから綿花輸入・植民地に綿布輸出



●アメリカから綿花輸入・南北戦争（1861～65）



●エジプトから綿花輸入・ダム建設



● Cottonの歴史（日本）江戸時代まで

- 日本では799年、三河国に種子が伝来するも栽培に失敗。
- 15世紀後半・戦国時代後期に三河国から綿花栽培が広がる。
- 江戸時代には急速に拡大。全国（福島県以西）各地に大生産地を形成。太物（木綿）問屋・藍染問屋・干鰯問屋が繁盛する。



● Cottonの歴史（日本） 明治維新以降

- 1863年 薩英戦争勃発
- 1867年 鹿児島紡績所設立（集成館事業の一環として）
- 1868年 明治元年
- 1878年 イギリスより紡績機械を輸入・官営紡績所設立
- 1896年（明治29年）綿花輸入関税撤廃法が成立
- 1899年（明治32年）綿糸の輸出額が生糸に次ぐ2位に
綿糸輸出額 2,890万円、綿花輸入額 6,215万円
- 1925年（大正14年）綿栽培面積10万ha→1300ha
- 1934年（昭和9年）綿布輸出量（21億m²）がイギリスを抜いて世界第1位に

●和綿と洋綿の違いは？

↓和綿(サムライジーンズ)

洋綿(アメリカ産)↓





●フィールドワーク報告①

糸紡ぎ体験～丹波布伝承館
(大谷とみ江さん)

丹波佐治地域で織られていた為、以前は「佐治木綿」と呼ばれていた。手紡ぎ・草木染・手織りを守ってきた国の無形文化財。「丹波布」の命名者は柳宗悦。



●フィールドワーク報告②

サムライ自家製ジーンズプロジェクト

篠山市真南条圃場（103a）

（野上社長＆伊藤真士さん）

2012年から栽培開始、毎週土曜日に「綿づくりメンバー集結。2018年からは篠山市野間地域に拠点を移して活動中。



●フィールドワーク報告③

365cotton

(サブロクコットン)

西脇市上比延町

(小野圭耶さん)

代表は播州織デザイナーの小野さん。仲間の村田裕樹さんの住む農家の一軒家を「コットンハウス」と名付け、拠点にして活動中。月に一度のワークショップ開催。





●フィールドワーク報告④

かこっとなファームプロジェクト
(ワシオ株)・志方東営農組合・加古川市)

栽培規模 2ha (今年の実績)

ワシオ株は、加古川市志方町に本社のある靴下メーカー。別会社(かこっとな株)を設立して、播州木綿復興の為、行政を巻き込んでプロジェクトを展開中。



●フィールドワーク報告⑤

福島オーガニックコットンプロジェクト
わき夏井ファーム他 2,3ha

(い

エコ旅行会社「リボーン」のコットン収穫ツアーに参加。津波被害を受けた圃場での収穫作業を体験しました。
圃場オーナーの小林夫妻のお話しに感銘を受けました。



●福島浜通り(いわき～広野町～楡葉町
～富岡町～双葉町～相馬)をめぐる
エクスカーション(体験型見学)

広野町&富岡町でコットン収穫、
双葉町で「福島原発の現状」を学び、

南相馬では藍染体験をしました。



●フィールドワーク報告⑥

全国コットンサミット in 加古川

- 2011年 岸和田（河内木綿）
- 2012年 境港（伯州綿）
- 2013年 奈良県広陵町（大和木綿）
- 2014年 愛知県蒲郡（三河木綿）
- 2016年 信州高山
- 2017年 加古川（播州木綿）
- 2018年 福島県いわき市（会津木綿）

全国コットンサミット実行委員会の委員長は、大正紡績(株)の近藤健一氏です。

「東北コットンプロジェクト」の立役者！
「コットンは塩害に強い」近藤氏の言葉からプロジェクトは始動しました。

●今年の「全国コットンサミット in 福島いわき」にも行ってきました～！



●コットン学習を通して、感じたこと・・・

①子供たちへの「服育」は大事！

衣服はどこにでもあるもの、安価なものではない。

②国内でコットン自給することの意味

繊維産業復興・地域創生・休耕田活用・震災復興・・・
コットン自給の実証実験が、成功する確率は～？

③オーガニックコットンはエシカルファッション素材

人口減少時代、モノが売れない時代がやってくる。
大量生産・大量消費・大量廃棄時代はいつまで～？

●何故「食衣住」でなく「衣食住」なのか？

衣食住のうち、食と住は人間にも動物にも共通するが、**衣**服をまとわなければ生きていけないのは人間だけ。

衣は寒さから身を守る役目もあるが、その人の考えや行動を表し地位も表す。その人の生き方が込められている。

- 田畑 健著「ワタが世界を変える」より抜粋

ご清聴ありがとうございました。

